

# BOOK INFORMATION FORUM

人身御供や人柱とは何か!?

生身の人間を捧げられる神の野蛮とは!?

神、人を喰う

▼六車由実著

かつての日本各地では、神と人とが交歓・交感しあう聖なる場に、鹿や猪、兎、鴨などの鳥獣の肉や血が供えられる祭りが行われていたし、現在も同様の祭儀を踏襲している神社もある。

かつての日本各地では、神と人とが交歓・交感しあう聖なる場に、鹿や猪、兎、鴨などの鳥獣の肉や血が供えられる祭りが行われていたし、現在も同様の祭儀を踏襲している神社もある。



なぜ、人は鳥獣や生身の人間を食べ物として神に捧げるのか。そして、現代人がそうした野蛮で残酷な祭儀に、違和感や嫌悪感を覚えがちなのはなぜなのか。

本書は人身御供祭祀の分析を通して、祭りに要請される「暴力」とその意味を考察したもので、次の各章からなる。「人身御供」はどのように論じ得るか／「人身御供の祭」という語りと暴力／祭における「性」と「食」／人身御供と殺生罪業観／人身御供と稲作農耕／人柱・人身御供・イケニエ

従来供儀や生贄についての研究を批判し、独自の論を展開した学術的論考である。(新曜社／2500円(税別))

神人を喰う

人身御供の祭儀

六車由実